

科 目						担当教員(○主担当)			
花き生産流通実習Ⅰ						○臼田 浩通、前田 宝秀、加藤 孝義☆(非常勤講師)、水谷 喜輝☆(非常勤講師)			
授業形態	実習	開講時期	1年前期	時間数	90	区分	必修	分野	花き生産流通
背景と目的		花き産業で活躍するためには、生産から流通・加工・小売りと幅広い知識が求められる。本実習では、春・夏期の花きの繁殖、栽培管理を行い、鉢物、苗物および切り花生産におけるそれぞれの基礎技術の習得を目指す。また、実習で栽培した花きの市場出荷などを通じて花き流通の基礎についても学ぶ。							
到達目標		・花きの繁殖方法を理解する。 ・花きの栽培管理を体得する。 ・花きの出荷調整を体得する。 ・チームワークの重要性を理解する。							
授業外の学習		本実習で扱う生産物については、授業時間外でも生育状況を観察すること。							
評価方法		取組姿勢(30%)、筆記試験(70%)							
教科書		『園芸「コツ」の科学』(講談社)							
参考書		—							
関連する資格		—							

※☆のある教員は実務経験有り

授業計画				
実習・演習の進め方		2つのグループに分け、鉢物および切り花の実習をそれぞれ行う。 実習で扱う植物は以下の通りである。 鉢物、苗物：ペゴニア、ニチニチソウ、アゲラタム、トレニア、インパチェンス、ジニア、サルビア、ペチュニア、マリーゴールド、センニチコウ、メランポジウム、ダイアンサス、ポットマムなど 切り花：バラ、キンギョソウ、マトリカリア、アスター、ガーベラ、トルコギキョウ、フランネルフラワーなど		
回	時間数	項 目	授業内容	担当教員
1	4	栽培技術の習得①	鉢物：播種① 切り花：トルコギキョウ圃場準備	臼田・前田
2	4	栽培技術の習得②	温室遮光カーテンの設置	臼田・前田
3	4	栽培技術の習得③	鉢物：灌水方法解説 切り花：トルコギキョウ 定植	臼田・前田
4	4	栽培技術の習得④	鉢物：ポット上げ① 切り花：マトリカリア等 定植	臼田・前田
5	4	栽培技術の習得⑤	鉢物：苗物の栽培試験 切り花：ガーベラ 葉かき	臼田・前田
6	4	栽培技術の習得⑥	鉢物：ポット上げ② 切り花：バラ 芽整理	臼田・前田
7	4	栽培・出荷調整技術の習得①	鉢物：寄せ植え商品制作 切り花：ガーベラ収穫調整	臼田・前田
8	4	栽培・出荷調整技術の習得②	鉢物：施肥・出荷調整① 切り花：バラ収穫および出荷調整	臼田・前田
9	4	栽培技術の習得⑦	鉢物：植物の仕立て方(ピンチ) 切り花：ソラナム定植	臼田・前田
10	4	栽培技術の習得⑧	鉢物：培養土の化学性調査 切り花：フランネルフラワー鉢替え	臼田・前田
11	4	栽培技術の習得⑨	鉢物：培養土作製 切り花：トルコギキョウ 側枝整理	臼田・前田
12	4	栽培技術の習得⑩	鉢物：シクラメンの鉢替え① 切り花：マトリカリア側枝整理	臼田・前田
13	4	栽培・収穫調整技術の習得③	鉢物：シクラメンの鉢替え② 切り花：マトリカリア収穫調整	臼田・前田
14	4	花き商品開発の展望	商品開発に必要な視点や今後の展望について学ぶ	加藤・臼田
15	4	栽培・収穫調整技術の習得④	鉢物：苗物生産における生産コストの計算 切り花：アスター収穫調整	臼田・前田
16	4	ポットマム栽培の実際	ポットマムなど鉢物栽培の現状とさし芽について学ぶ	水谷
17	4	栽培・収穫調整技術の習得⑤	鉢物：生産物販売データ分析 切り花：トルコギキョウ収穫調整①	臼田・前田
18	4	栽培技術の習得⑪	鉢物：播種② 切り花：ストック播種	臼田・前田
19	4	栽培・収穫調整技術の習得⑥	鉢物：病害虫防除・施肥 切り花：トルコギキョウ収穫調整②	臼田・前田
20	4	栽培技術の習得⑫	鉢物：施肥・出荷調整② 切り花：ストック 定植	臼田・前田
21	4	栽培技術の習得⑬	鉢物：施肥・出荷調整③ 切り花：キク 定植	臼田・前田
22	4	栽培技術の習得⑭	鉢物：シクラメンの管理 切り花：キンギョソウ 定植	臼田・前田
23	2	試験	筆記試験	臼田・前田

特記事項	植物の生育状況等により実習内容を変更する場合がある。 温室内は高温となるため、常に体調管理に気をつけること。また、熱中症対策(水分補給等)に特に留意すること。
学生へのメッセージ	鉢物および切り花について、多くの品目を扱うので、それぞれの花きの特徴を覚えましょう。

科 目						担当教員(○主担当)			
園芸流通概論						○井上 守☆、福永 哲也☆(非常勤講師)			
授業形態	講義	開講時期	1年前期	時間数	30	区分	必修	分野	花き生産流通
背景と目的		日本の花き生産は1990年をピークに減少の一途をたどっている。花き流通の現場では生産の減少に伴い厳しい経営環境が続き、生き残りを賭けて大胆な変革や抜本的な構造改革を余儀なくされている。本科目では目まぐるしく変化する花き流通の現場を、最新の情報と現物を見ることでより印象強く焼きつけ、今後の花き流通の現場を理解する事を目的とする。							
到達目標		・国内外の花きの消費状況や生産状況を理解する。 ・卸売市場や農協の中間業者の役割と機能を理解する。 ・トレードフェアを視察し、最新の情報や商品に触れて、商品開発のトレンドを知る。 ・花き流通に関する最新の関連法令(植物検疫、種苗法)を理解する。 ・花き物流や園芸資材に関する最新事情(技術、特許)を理解する。							
授業外の学習		多目的ホールにある業界紙『花卉園芸新聞』、『環境緑化新聞』を定期的に読んでおくこと。							
評価方法		取組姿勢(20%)、筆記試験(80%)							
教科書		『園芸大図鑑』(ブティック社)							
参考書		『物流ビジネス最前線 ネット通販、宅配便、ラストマイルの攻防-』(光文社新書)							
関連する資格		—							

※☆のある教員は実務経験有り

授業計画				
回	時間数	項 目	授業内容	担当教員
1	2	花の消費	国内の花の消費状況	井上
2	2	国内の花き生産	国内の切花、鉢物、樹木の生産状況	井上
3	2	植物の表記とその呼称	正式な植物名(学名、種小名、品種名)の表記と一般に使用される植物の呼称についての整理	井上
4	2	卸売市場や農協の機能と役割	中間業者として卸売市場や農協の歴史と果たしてきた役割とその未来	井上
5	8	学外視察 豊明花き トレードフェア 見学 2021.5.29(土) 予定	・日本最大の花きトレードフェアに参加。全国の優良生産者の商品展示から、流行の最先端の植物やその品質を学習する ・豊明花きの施設を見学 ・福永講師の特別講演(90分) 「消費動向からみる豊明花きのDX戦略」	井上 福永
6	2	海外の花き生産と植物検疫	海外の花き生産と日本に輸出される花きの状況と植物検疫の現状	井上
7	2	ホームセンター	ホームセンターの概要とビジネスモデル	井上
8	2	花の小売店	花の小売店(生花店、園芸店)の現状と小売店以外の花を使う業者について	井上
9	2	種苗法	種苗法の存在意義と花き生産の方向性	井上
10	2	壁面緑化ビジネス	壁面緑化ビジネスの最新情報	井上
11	2	試験	筆記試験	井上
12	2	園芸資材の技術革新と特許	様々な園芸資材と切花バケツ、鉢物トレーを紹介し、その特許について解説	井上

特記事項	福永講師の講演は、業界関係者等も参加可能な公開講座で行う予定。
学生へのメッセージ	『百聞は一見にしかず』といいますが、私は『百見は一験(体験してみる)、一触(さわってみる)にしかず』と思っています。最新の流通現場を体験して触れてみましょう。

科 目						担当教員(○主担当)			
園芸装飾実習Ⅰ						○吉田 久美子☆、佐久間 貴敏☆(非常勤講師)、 福井 典子☆(非常勤講師)			
授業 形態	実習	開講 時期	1年 前期	時間数	30	区分	必修	分野	花き装飾
背景と目的		快適な生活空間において植物は必要不可欠となっている。まず植物に触れて育てる技術を習得し、植物を使った装飾をする必要がある。本科目は基本的な植物の育て方と管理方法を学び、多様な植物の装飾方法の基礎技術を取得することを目的とする。							
到達目標		・生活空間での植物の装飾方法および家庭園芸での植物の維持管理方法を理解する。 ・制作した寄せ植えハンギングバスケットなどを長期メンテナンスすることによって、管理方法を習得する。 ・園芸装飾実技試験のデモンストレーションを通し、観葉植物を使用した装飾方法を習得する。 ・春から秋にかけての植物の管理を習得する。							
授業外の学習		授業で制作したものは、常時観察・管理すること。							
評価方法		取組姿勢(20%)、提出物(20%)、筆記試験(60%)							
教科書		—							
参考書		—							
関連する資格		2級・3級園芸装飾技能士							

※☆のある教員は実務経験有り

授業計画				
実習・演習の進め方		花フェスタ記念公園で、園芸装飾の事例調査を行い、寄せ植えやハンギングバスケットなどを制作し学内で管理及びメンテナンスを行います。 また後期の学内ディスプレイ制作に向けて室内園芸装飾制作の事例を検定試験課題から学びます。		
回	時間数	項 目	授業内容	担当教員
1	4	園芸装飾に事例	園芸装飾の魅力 装飾事例の視察調査(花フェスタ記念公園)	吉田
2	4	家庭園芸① 寄せ植え基礎①	植木鉢の種類とその用途 バルコニープランター・寄せ植え制作	吉田
3	4	家庭園芸② ハンギングバスケット基礎	肥料と家庭農業について ハンギングバスケットの制作と管理	吉田
4	4	室内園芸装飾①	観葉植物の組み合わせた装飾の作り方 資材の特徴と扱い方	佐久間
5	4	室内園芸装飾②	高低差の収め方 室内作業と管理の注意点	佐久間
6	4	家庭園芸基礎③ 苔玉・ハイドロカルチャー	観葉植物の管理方法 苔玉制作・ハイドロカルチャー制作	吉田
7	4	寄せ植え基礎②	Plants gathering(プランツ・ギャザリング®)の制作	福井
8	2	試験・まとめ	筆記試験・制作物の振り返り	吉田

特記事項	授業時間外においても制作物の管理及びメンテナンスを行います。 園芸装飾技能検定受検者は、練習日程を担当教員と調整します。 実習にふさわしい服装でハサミを持参してください。
学生へのメッセージ	生活空間での植物の管理は園芸を学ぶものとして必要です。

科 目						担当教員(○主担当)			
フラワーデザイン実習Ⅰ						○林 誠☆、吉田 久美子☆、中西 裕子☆(非常勤講師)			
授業形態	実習	開講時期	1年前期	時間数	60	区分	必修	分野	花き装飾
背景と目的		「花と緑のある生活」は、人々の心を癒し、時には元気や活力をもたらす事から、忙しい現代社会において、花き装飾に求められる役割は今後一層大きくなると思われる。 フラワーデザインとは植物を素材とする創作活動のすべてを指し、人の手が加わることで、植物の魅力を最大限に引き出しながら用途に合わせた美を表現することである。本科目ではフラワーデザインの基礎技術をアレンジメントや花束を中心に自ら制作することにより身につける事を目的とする。							
到達目標		・フラワーアレンジメントの基本技術を習得する。 ・花束の基本技術を習得する。 ・フラワーデザインについての基本知識を習得する。							
授業外の学習		実習で学んだ技術を復習し習得すること。							
評価方法		取組姿勢(50%)、筆記試験(10%)、実技(40%)							
教科書		『フラワーデザイナーのための花の教科書』(講談社)							
参考書		『フローリスト』(誠文堂新光社)、『花時間』(株式会社KADOKURA)、『NFDウエディングフラワーコーステキスト』(日本フラワーデザイナー協会)							
関連する資格		2級・3級フラワー装飾技能士							

※☆のある教員は実務経験有り

授業計画				
実習・演習の進め方		デモンストレーションを参考に作品を制作します。		
回	時間数	項 目	授業内容	担当教員
1	4	導入	フラワーデザインの世界と心得・フリーアレンジ	林
2	4	アレンジメントの基本①	ラウンド・ホリゾンタル	林
3	4	アレンジメントの基本②	トライアングュラー・ファン	林
4	4	アレンジメントの基本③	パーティカル、フラワーアレンジの歴史	林
5	4	アレンジメントの基本④	面構成と自然度	林
6	4	ウェディングブーケの基本	ブライデーラウンドブーケ	林
7	4	コサージュ・ブートニアの基本	ワイヤリングテクニック・ループリボン	吉田
8	4	ブリザーブドフラワーの基本	ブリザーブドフラワーの特徴・ローズメリア	中西
9	4	ドライフラワーの基本	ドライフラワーの特徴・壁掛け	中西
10	4	押し花の基本	押し花の特徴・額縁	中西
11	4	花束の基本①	水あげ方法・スパイラルテクニック(一方見と四方見)	林・吉田
12	4	花束の基本②	ラッピング方法・パラレルテクニック	林
13	8	生花店見学と花材選び(学外)	テーマに沿った花束・アレンジメント制作	林
14	4	試験・実技	筆記試験・コサージュ制作	林

特記事項	実習にふさわしい服装で受講してください。
学生へのメッセージ	フラワーデザインの基礎技術や知識を学び、植物の魅力を最大限に引き出し、より美しく表現できるようになりましょう。

科 目						担当教員(○主担当)			
3級フラワー装飾技能検定対策実習						○安保 有美☆(非常勤講師)、林 誠☆			
授業形態	実習	開講時期	1年前期	時間数	60	区分	選択	分野	花き装飾
背景と目的	3級フラワー技能検定は花の装飾に関わる職業に従事する人として、最低限の技術があるかの判断するための国家試験である。本科目は3級フラワー装飾技能士の取得もしくは、同レベルの技術と知識の取得を目的とする。								
到達目標	・3級フラワー技能検定の合格水準の技術力を習得する。 ・実技試験内容を繰り返し制作練習することで基礎的な技術を習得する。 ・学科試験のためのフラワーデザインに関する知識を習得する。								
授業外の学習	実習で学んだ技術を復習し習得すること。								
評価方法	取組姿勢(50%)、実技(50%)								
教科書	—								
参考書	『フラワー装飾技能検定試験・実例とポイント』(講談社エディトリアル)								
関連する資格	3級フラワー装飾技能士								

※☆のある教員は実務経験有り

授業計画				
実習・演習の進め方		3課題を、花材の入荷と各自の習得スピードに合わせて、指導を行う。		
回	時間数	項 目	授業内容	担当教員
1	4	検定試験の概要	検定試験の概要説明とデモンストレーション	安保
2	4	花束課題①	花束の基本	安保
3	4	花束課題②	花束の基本徹底	安保
4	4	花束課題③	効率的な花束の制作	安保
5	4	アレンジメント課題①	アレンジメントの基本	安保
6	4	アレンジメント課題②	アレンジメントの基本徹底	安保
7	4	アレンジメント課題③	効率的なアレンジメントの制作	安保
8	4	ブートニア課題①	ブートニアの基本	安保
9	4	ブートニア課題②	ブートニアの基本徹底	安保
10	4	ブートニア課題③	効率的なブートニアの制作	安保
11	4	3課題①	時間配分を考慮した通し練習①	安保
12	4	3課題②	時間配分を考慮した通し練習②	安保
13	4	3課題③	時間配分を考慮した通し練習③	安保
14	4	3課題④	実技課題最終確認	安保
15	4	学科試験対策	過去問題・模擬問題	林

特記事項	3級保持者も履修可能。2年生で履修希望する場合は担当教員と協議し「相互科目履修」を申請し許可を受け、履修することが出来ます。時間外の練習も必要のため授業外も練習する意欲が必要になります。また花材費約4万円かかりますので良く考えて履修してください。
学生へのメッセージ	合格目指して頑張りましょう。

科 目						担当教員(○主担当)			
花修景実習Ⅰ						○相田 明、天野 麻里絵☆(非常勤講師)			
授業形態	実習	開講時期	1年前期	時間数	30	区分	必修	分野	造園緑化
背景と目的		花を使った修景(景色を整えること)は、人々の目を引くことから、個人の庭園から都市公園、商業施設までさまざまな場面で活用されている。1年前期・後期、2年前期の1年半にわたり継続する「花と緑の学校」の基礎を学ぶ花修景実習は、学内で栽培した一年草の鉢苗を中心に学内(本館と研修教育棟)の植栽地に夏花壇をつくることにより、その植栽計画・管理の習得を目的とする。							
到達目標		・一年草の鉢苗について生育を知る。 ・土壌改良、施肥について理解する。 ・植栽計画、植栽地の管理ができる。							
授業外の学習		季節ごとに咲く花に関心を持ち、写真を撮るなどして変化を観察すること。							
評価方法		取組姿勢(50%)、提出物(50%)							
教科書		『小さくても素敵な花壇づくり』(講談社)							
参考書		『ガーデン植物大図鑑』(講談社)							
関連する資格		—							

※☆のある教員は実務経験有り

授業計画				
実習・演習の進め方		主に学内で生産した花苗を使い実習を行う。 学外の視察調査を予定している。		
回	時間数	項 目	授業内容	担当教員
1	4	花壇の植物とその植栽法、花壇のデザイン、花壇の管理	花壇で使用する植物とその管理方法、花壇のデザインの手法、植栽管理	天野
2	4	夏花壇の土壌改良	冬花壇の撤去と土づくり	相田
3	4	夏花壇の植栽	一年草の植栽	天野
4	4	夏花壇の管理①	6月の植栽管理	天野
5	4	夏花壇の管理②	7月の植栽管理	相田
6	4	夏花壇の管理③	9月の植栽管理	天野
7	4	視察調査	花を使った修景空間の視察調査(豊田ガーデン)	相田
8	2	夏花壇のまとめ	まとめと花修景実習Ⅱに向けての説明、植栽管理	相田

特記事項	実習ではハサミ、手袋、帽子、作業しやすい服装が必要。
学生へのメッセージ	公園の現場では花苗植栽や花がら摘みはボランティアが行うことも多く、我々の仕事は花苗の購入手配や土壌改良、除草といった裏方の地味な仕事となります。しかし、このような仕事があるからこそ、花が美しく保たれることにつながります。花を使った空間づくりができるようになりましょう。

科 目						担当教員(○主担当)			
造園施工・管理実習Ⅰ						○新井 俊宏☆、佐竹 康太郎☆(非常勤講師)、 上田 善弘(客員教授)			
授業形態	実習	開講時期	1年前期	時間数	60	区分	必修	分野	造園緑化
背景と目的		施工実習では、自然材料や加工材料を用いた造園施設の制作、管理実習では学内庭園や植物について時期や生育特性に合わせた管理方法などを学ぶとともに、造園的視点・視野をもった観察力の強化を図る。 これにより、潤いやすらぎのある造園空間を創造するための基礎的な知識、技術、センスを習得する。							
到達目標		・造園植物(樹木、下草、芝生など)の生育特性を踏まえた管理方法を習得する。 ・造園施設(竹垣、敷石、レンガ舗装など)の施工方法を習得する。 ・造園空間の特性を理解する。							
授業外の学習		・学内造園空間のエリア管理を必要に応じ行うこと。 ・『Landscape Design』、『庭』、『環境緑化新聞』等を読むこと。							
評価方法		取組姿勢(70%)、提出物(30%)							
教科書		『造園施工必修』(日本造園組合連合会)							
参考書		『造園技術ハンドブック』(誠文堂新光社)							
関連する資格		2級・3級造園技能士、2級造園施工管理技士							

※☆のある教員は実務経験有り

授業計画				
実習・演習の進め方		学内の庭園や植栽地をフィールドとして、造園施工作業及び造園管理作業の実習を行う。 毎回、実習の内容を整理し野帳に記して翌日提出すること。		
回	時間数	項 目	授業内容	担当教員
1	4	造園管理①	造園空間の観察と道具の取扱い	新井
2	4	造園管理②	灌木の刈り込み	新井
3	4	造園管理③	芝生の管理	新井
4	4	造園管理④	常緑樹の春の管理(クロマツのミドリ摘み)	佐竹
5	4	造園施工①	土の造形物の制作	新井
6	4	造園管理⑤	本館アプローチ花壇の植栽計画	新井
7	4	造園管理⑥	本館アプローチ花壇の植栽	新井
8	4	造園施工②	四ツ目垣の制作	新井
9	4	造園施工③	縁石、敷石の据付	新井
10	4	造園管理⑦	初夏の花木剪定	新井
11	4	造園施工④	レンガ舗装の施工①(土工、路盤工)	新井
12	4	造園施工⑤	レンガ舗装の施工②(レンガ敷設)	新井
13	4	造園管理⑧	バラの特性と夏季剪定	上田
14	4	造園管理⑨	常緑樹の剪定	佐竹
15	4	造園管理⑩	本館前庭園の管理	新井

特記事項	実習時は作業着、グローブ、保護帽などを着用すること。天候などの理由により実習内容を変更する場合がある。夏期の高温時の実習では、熱中症防止のため帽子を着用し水分補給をすること。
学生へのメッセージ	造園の基本的な知識や技術、センスをこの授業でしっかり身につけてください。

科 目						担当教員(○主担当)			
3級造園技能検定対策実習						○新井 俊宏 ☆			
授業形態	実習	開講時期	1年前期	時間数	30	区分	選択	分野	造園緑化
背景と目的		造園技能士は、造園に関するさまざまな知識と技能を有するものに与えられる国家資格である。造園技能士は、家庭の庭づくりや維持管理ばかりでなく、大規模な公共工事では現場に参加することが義務づけられている重要な資格である。本科目は3級造園技能検定試験に合格するための知識、技術を習得することを目標とする。							
到達目標		・学科試験の合格水準に達する知識を習得する。 ・実技試験の課題制作が、規定時間内に規定の寸法どおりに完成することができる。 ・実技試験の要素試験に出題される樹木を判別することができる。							
授業外の学習		・学科試験対策は希望者に補講を行うが、受講にあたっては各自予習、復習を行うこと。 ・実技試験の練習は授業外にも自主的に行うこと。							
評価方法		取組姿勢(80%)、実技(20%)							
教科書		『3級造園技能検定受検の手引き(学科・実技編)』(日本造園組合連合会)							
参考書		『3級造園技能検定DVD』(日本造園組合連合会)							
関連する資格		2級・3級造園技能士、2級造園施工管理技士							

※☆のある教員は実務経験有り

授業計画				
実習・演習の進め方		6月～7月に検定試験日程に合わせて集中開講する。 学科試験対策は、受験の手引きに掲載されている過去問題を解きながら解説を行う。 実技試験の課題制作対策は、練習場において、繰り返し課題を制作して練習する。 実技試験の要素試験対策は、学内の樹木枝を標本木として枝、葉、芽などの特徴を覚える。		
回	時間数	項 目	授業内容	担当教員
1	2	試験対策概要	学科・実技試験対策の講義	新井
2	4	実技試験対策①	実技試験課題の練習(竹垣)①	新井
3	4	実技試験対策②	実技試験課題の練習(竹垣)②	新井
4	4	実技・学科試験対策	要素試験対策、過去問題による学科試験の出題傾向	新井
5	4	実技試験対策③	実技試験課題の練習(縁石、敷石)	新井
6	4	実技試験対策④	実技試験課題の練習(制限時間内での練習)①	新井
7	4	実技試験対策⑤	実技試験課題の練習(制限時間内での練習)②	新井
8	4	実技試験対策⑥	実技試験課題の練習(制限時間内での練習)③	新井

特記事項	担当教員と事前に相談の上、「相互科目履修申請書」を提出し、許可を受けた2年生も履修することができる。天候などの理由により実習日程を変更する場合がある。夏期高温時の実習となるため、熱中症防止のため帽子を着用し水分補給をするなど、体調管理を十分にすること。練習場の区画整備は授業時間外で行う。受講者は必ず参加すること。
学生へのメッセージ	国家資格の受検をととして造園の奥深さや面白さを体感してください。

科 目						担当教員(○主担当)			
植物管理基礎実習Ⅰ						○前田 宝秀、臼田 浩通、吉田 久美子☆、林 誠☆、 相田 明、新井 俊宏☆、井上 守☆、佐藤 智茂☆			
授業 形態	実習	開講 時期	1年 前期	時間数	60	区分	必修	分野	植物管理
背景と目的		生産・装飾・造園緑化の各分野において、四季を通じて植物を管理するための知識および技術は必ず習得すべきものである。 本科目では、春・夏期における生産温室、学内花壇、庭園、その他各種花飾り等の日常管理を行うことで、園芸植物管理に不可欠な基礎的技術と知識を習得する。							
到達目標		・春・夏期における植物の種類による管理方法の違いを理解する。 ・春・夏期における灌水技術を習得する。 ・春・夏期における温室の管理技術を習得する。							
授業外の学習		実習前に、当日および翌日の天気予報を必ず確認すること。実習後に週間レポート用紙に当日の気温、天気、実習内容、疑問に思ったこと等を記入すること。							
評価方法		取組姿勢(80%)、レポート(20%)							
教科書		—							
参考書		—							
関連する資格		—							

※☆のある教員は実務経験有り

授業計画				
実習・演習の進め方		原則1週間(水曜日～翌週火曜日)を単位として管理実習を行う。学生の班編制を行い、年間計画を作成して実習を行う。学生の班編制は、季節の作業内容や管理するエリア等を考慮して人数を決める。原則として1年生1名に対して2年生1名が組み、担当教員が植物管理について指導を行う。		
回	時間数	項 目	授業内容	担当教員
1	8	植物の種類と管理	植物の種類に応じた管理方法	週 担当教員
2	8	土壌と灌水①	土壌の性質と水管理	週 担当教員
3	8	土壌と灌水②	自動灌水と手灌水による管理技術	週 担当教員
4	8	植物の生長・開花①	環境(温度・光・水・風)の変化による植物の生長の違	週 担当教員
5	8	植物の生長・開花②	植物の特性に応じた環境調節(遮光、保温、暖房等)技術	週 担当教員
6	8	植物の総合管理	花殻摘み・除草などの植物維持管理技術	週 担当教員
7	8	病害虫・品質	病害虫の種類と生態	週 担当教員
8	2	春・夏期の植物管理方法	春・夏期の各エリアの植物管理方法(講義)	前田・吉 田・新井・ 佐藤
9	2	エリア整備	各エリアの整備を通じた、環境美化意識の向上	各エリア 担当教員

特記事項	年間計画に基づき、おおむね1週間の実習を複数回行う。 実習時間は原則として、朝8時から8時45分、夕方16時35分から17時5分までとする。 祝日および長期休暇期間中も行う。
学生へのメッセージ	まずは植物を「枯らさない」ことに始まり、「美しい状態で維持管理する」技術の習得を目指します。灌水の技術だけでも3年かかってやっと習得できるという意味で、「水やり三年」という言葉があります。植物の日常的な管理は日々の経験の積み重ねが大切ですので、コツコツと頑張りましょう。

科 目						担当教員(○主担当)			
花き生産流通実習Ⅱ						○臼田 浩通、前田 宝秀、水谷 善輝☆(非常勤講師)、 吉田 久美子☆、林 誠☆			
授業 形態	実習	開講 時期	1年 後期	時間数	60	区分	必修	分野	花き生産流通
背景と目的		前期の花き生産流通実習Ⅰで習得した花き生産技術をベースに、秋・冬期の花きの繁殖、栽培管理を行い、鉢物、苗物および切り花生産におけるそれぞれの技術の発展を目指す。また、実習で栽培した花きを市場に出荷し、花き流通の基礎についても学ぶ。10月下旬には、学外イベントにおける生産物販売も行う。							
到達目標		・イベントで販売するためのプロセスを体得する。 ・花きの栽培管理を体得する。 ・チームワークの重要性を理解する。 ・花きの繁殖方法を理解する。 ・花きの出荷調製を体得する。 ・接客技術を習得する。							
授業外の学習		本実習で扱う生産物については、授業時間外でも生育状況を観察すること。							
評価方法		取組姿勢(30%)、筆記試験(35%)、レポート(35%)							
教科書		『園芸「コツ」の科学』(講談社)							
参考書		—							
関連する資格		—							

※☆のある教員は実務経験有り

授業計画				
実習・演習の進め方		実習は前期同様2つのグループに分け、鉢物および切り花の実習をそれぞれ行う。 実習で扱う植物は以下の通りである。 鉢物、苗物：ポットマム、パンジー、ビオラ、ハボタン、ガーデンシクラメン、シクラメン、クリサンセマム、アリッサム、ロベリア、シネリア、バーベナ、デージー、ストックなど 切り花：バラ、ガーベラ、ヒマワリ、キンギョソウ、キク、ストック、モルセラ、ハボタン、フランネルフラワーなど		
回	時間数	項 目	授業内容	担当教員
1	4	栽培技術の習得①	イベントで販売する花きの栽培管理	臼田・前田
2	4	イベント販売に向けての準備①	イベント販売用POPの作成	臼田・前田・吉田・林
3	4	ポットマムの生育評価	各自が育てたポットマムの管理状況を確認評価	水谷・臼田
4	4	イベント販売に向けての準備②	イベント販売ブースレイアウトシミュレーション	臼田・前田・吉田・林
5	4	イベント販売に向けての準備③	イベント販売商品の出荷準備	臼田・前田
6	8	イベントでの生産物販売	学外イベントにおける生産物の販売実習	臼田・前田・吉田・林
7	4	栽培技術の習得②	鉢物：ポット上げ 切り花：キク側芽整理	臼田・前田
8	4	栽培・出荷調整技術の習得①	鉢物：シクラメン播種 切り花：ストック収穫調整	臼田・前田
9	4	栽培・出荷調整技術の習得②	鉢物：苗物生育調査 切り花：キク収穫調整	臼田・前田
10	4	栽培技術の習得③	鉢物：イベント販売データ分析 切り花：ヒマワリ定植	臼田・前田
11	4	栽培技術の習得④	鉢物：春出荷苗物の播種 切り花：ニゲラ等定植準備	臼田・前田
12	4	栽培技術の習得⑤	鉢物：ガーデンシクラメン播種 切り花：ニゲラ等定植	臼田・前田
13	4	栽培技術の習得⑥	鉢物：苗物の定植準備 切り花：モルセラ栽培管理	臼田・前田
14	4	試験	筆記試験およびレポート提出	臼田・前田

特記事項	植物の生育状況等により実習内容を変更する場合がある。 体調管理に気をつけること。また、熱中症対策(水分補給等)および防寒対策に留意すること。
学生へのメッセージ	実習前半のイベントでの花販売では、自分の手で種から育てた植物が商品としてお客様の手に渡ります。商品知識を身に付けて、接客・販売の訓練を行いましょう。

科 目						担当教員(○主担当)			
園芸装飾実習Ⅱ						○吉田 久美子☆			
授業形態	実習	開講時期	1年後期	時間数	30	区分	選択	分野	花き装飾
背景と目的		植物は、人々に快適な空間をつくり、美しい街づくりには欠かせない存在となっている。本科目では学外事例を視察し、学内にテーマに合った小ガーデンをグループでコミュニケーションを取りながらデザイン～資材調達～施工～管理～撤去の一連の作業を行い実践的な技術を身に付ける。							
到達目標		・秋から春にかけての植物の管理方法を理解する。 ・バルコニープランター・ハンギングバスケットの開花調整、メンテナンス方法を習得する。 ・室内園芸装飾作品における基本的テクニックの習得をする。 ・デザイン～施工～植物管理～撤去を、グループで行う事でコミュニケーション力と協調性を習得する。							
授業外の学習		・学外視察前に、デンパークの概要を図書室の『安城産業文化公園デンパーク花とみどりの20年』に目を通すこと。 ・授業で制作したバルコニープランター・ハンギングバスケットは、常時観察・管理すること。 ・グループごとにデザインなどの打ち合わせをすること。							
評価方法		取組姿勢(50%)、提出物(20%)、制作作品(30%)							
教科書		—							
参考書		『安城産業文化公園デンパーク花とみどりの20年』(公益財団法人安城都市農業振興協会)							
関連する資格		2級・3級園芸装飾技能士							

※☆のある教員は実務経験有り

授業計画				
実習・演習の進め方		学外調査にて園芸装飾事例の計画方法や手法の調査を行い、グループに分かれ学内に約3週間装飾し、管理を行う。 学内に装飾するプランターやハンギングバスケットの植物の組み合わせや管理を各々のデザイン・管理方法で行う。		
回	時間数	項 目	授業内容	担当教員
1	8	装飾事例調査(学外)	装飾事例の視察調査(安城産業文化公園デンパーク)	吉田
2	4	家庭園芸基礎 寄せ植え応用	球根の種類と分類と植栽方法 バルコニープランターとハンギングバスケットの制作と管理方法	吉田
3	2	室内園芸装飾①	室内園芸装飾における植物の管理方法 テーマとコンセプト	吉田
4	4	室内園芸装飾②	計画・イメージ図からのプレゼンテーション・資材調達	吉田
5	4	室内園芸装飾③	準備・鉢物調達	吉田
6	8	室内園芸装飾④	制作・作品講評	吉田
特記事項		授業時間外においても制作物の管理及びメンテナンスを行います。 実習にふさわしい服装でハサミを持参してください。		
学生へのメッセージ		「園芸装飾実習Ⅰ」で学んだ技術を基本に本科目では実践的なテクニックを身に付けましょう。		

科 目						担当教員(○主担当)			
フラワーデザイン実習Ⅱ						○林 誠☆、吉田 久美子☆、中西 裕子☆(非常勤講師)、國井 理佐☆(非常勤講師)			
授業形態	実習	開講時期	1年後期	時間数	60	区分	選択	分野	花き装飾
背景と目的		フローリストの仕事の中で、季節や行事、イベントに関連する仕事の割合は年々増加している。本講義では、様々な季節や行事、イベントに特化した作品(商品)づくりに取り組むことにより、フローリストとして、クライアントの要望に答えられる知識や技術の引き出しを増やす事を目的とする。							
到達目標		・季節の商品が制作できる。 ・花に関わる季節行事を知る。 ・自ら花材を選びイメージを形にできる。							
授業外の学習		実習で学んだ技術を復習し習得すること。							
評価方法		取組姿勢(50%)、実技(50%)							
教科書		『フラワーデザイナーのための花の教科書』(講談社)							
参考書		『フローリスト』(誠文堂新光社)、『花時間』(株式会社KADOKURA)、『NFDウェディングフラワーコーステキスト』(日本フラワーデザイナー協会)							
関連する資格		2級・3級フラワー装飾技能士							

※☆のある教員は実務経験有り

授業計画				
実習・演習の進め方		デモンストレーションを参考に作品を制作します。 デザイン・コンセプトを考え作品を制作します。		
回	時間数	項 目	授業内容	担当教員
1	4	ウェディング装花①	ヘアーオーナメント	國井
2	4	季節の商品ハロウィン	グルーピングテクニック・ハロウィンアレンジメント	林
3	4	鉢のラッピングと寄せ鉢	ポット鉢の組み合わせ・ラッピング	吉田
4	4	ブリザーブドフラワーとドライフラワーの応用	パウダーフォーム・ハーバリウム	中西
5	4	季節の商品・クリスマス①	テーブルコーディネート・クリスマスのアレンジメント	中西
6	4	季節の商品・クリスマス②	花に関わる季節行事・スワッグ	林
7	4	季節の商品・クリスマス③	クリスマスリース	林
8	4	季節の商品・正月	しめ縄・正月のアレンジメント(グロースオブハビット)	吉田・林
9	4	アレンジメントの応用①	異なる素材の組み合わせ・BOXアレンジメント	林
10	4	アレンジメントの応用②	クレセント・ホガース	林
11	4	花束の応用	スパイラルテクニック(一方見・四方見)	林
12	4	ウェディング装花②	キャスケードブーケ	林
13	4	ウェディング装花③	クレセントブーケ	林
14	4	ブリザーブドコサージュ	卒業式に向けたブリザーブドコサージュ制作	林・吉田
15	4	実技	花束・アレンジメント制作(テーマに基づき各自花材調達)	林

特記事項	実習にふさわしい服装で受講してください。 花き装飾コース専攻生には強く推奨する。
学生へのメッセージ	フラワーデザインのテクニックや知識をより多く習得し作品の幅を広げましょう。

科 目						担当教員(○主担当)			
花修景実習Ⅱ						○相田 明、上野 恵☆(非常勤講師)			
授業形態	実習	開講時期	1年後期	時間数	30	区分	必修	分野	造園緑化
背景と目的	「花修景実習Ⅰ」に続き、本館と研修教育棟に加え、学内のボーダーガーデン、学外の花フェスタ記念公園を実習地とするこの実習は、一・二年草や球根、宿根草の植栽計画・管理の習得を目的とする。								
到達目標	・一・二年草や球根、宿根草の生育を知る。 ・都市公園における花修景について理解する。 ・ボーダーガーデンにおける宿根草の株分け、堀り上げができる。 ・二年草や球根、宿根草を使った植栽計画を立てることができる。								
授業外の学習	季節ごとに咲く花に関心を持ち、写真を撮るなどして変化を観察すること。								
評価方法	取組姿勢(50%)、提出物(50%)								
教科書	『小さくても素敵な花壇づくり』(講談社)								
参考書	『ガーデン植物大図鑑』(講談社)								
関連する資格	—								

※☆のある教員は実務経験有り

授業計画				
実習・演習の進め方		学内の実習では講義や実習内容の説明をした後(1時間程度)、実習を行う。花フェスタ記念公園の実習ではバスを利用し移動する。		
回	時間数	項 目	授業内容	担当教員
1	8	秋花壇の管理・補植	秋花壇の管理・補植、冬花壇のデザイン(花フェスタ) 花フェスタ記念公園の見学(実習フィールド、茶室など)	上野
2	4	冬花壇の土壌改良	夏花壇の撤去と土づくり(学内)	相田
3	4	冬花壇の植栽①	一年草などの植栽(学内)	相田
4	4	冬花壇の植栽②	一年草、球根などの植栽(花フェスタ)	上野
5	4	ボーダーガーデンの管理①	宿根草などの管理(学内)	相田
6	4	冬花壇の管理	植栽管理(学内)	相田
7	2	ボーダーガーデンの管理②	宿根草などの管理、株分け・鉢上げ(学内)	相田

特記事項	実習ではハサミ、手袋、帽子、作業しやすい服装が必要。
学生へのメッセージ	学内の植栽と違い、花フェスタ記念公園の植栽は来園者に見ていただく喜びがあると思います。

科 目						担当教員(○主担当)			
造園施工・管理実習Ⅱ						○新井 俊宏☆、佐竹 康太郎☆(非常勤講師)、上田 善弘(客員教授)			
授業形態	実習	開講時期	1年後期	時間数	60	区分	選択	分野	造園緑化
背景と目的		「造園施工・管理実習Ⅰ」に引き続き、潤いやすらぎのある造園空間を創造するための基礎的な知識、技術、センスの習得を目指す。 施工実習および管理実習ともに「造園施工・管理実習Ⅰ」同様、自然材料や加工材料を用いた造園施設の制作、学内庭園や植物について時期や生育特性に合わせた管理方法、樹木病害虫の防除方法などについて学ぶ。							
到達目標		・造園植物(樹木、下草、芝生など)の生育特性を踏まえた管理方法を習得する。 ・造園施設(景石、延べ段など)の施工方法を習得する。 ・造園空間の様式や構成を理解する。							
授業外の学習		・学内造園空間のエリア管理を必要に応じ行うこと。 ・『Landscape Design』、『庭』、『環境緑化新聞』等を読むこと。							
評価方法		取組姿勢(70%)、提出物(30%)							
教科書		『造園施工必携』(日本造園組合連合会)							
参考書		『造園技術ハンドブック』(誠文堂新光社)							
関連する資格		2級・3級造園技能士、2級造園施工管理技士							

※☆のある教員は実務経験有り

授業計画				
実習・演習の進め方		学内の庭園や植栽地、および学外(花フェスタ記念公園)の実習フィールドにおいて、造園施工作業及び造園管理作業の実習を行う。毎回、実習の内容を整理して野帳に記して翌日提出すること。		
回	時間数	項 目	授業内容	担当教員
1	4	造園管理①	実習フィールド造園エリアの管理(学外)	新井
2	4	造園管理②	本館アプローチ花壇の植栽	新井
3	4	造園管理③	芝生の刈り込み、サッチ取り、目土	新井
4	4	造園施工①	ロックガーデンの施工	新井
5	4	造園施工②	ロックガーデンの植栽	新井
6	4	造園管理④	実習フィールド花壇エリアの管理(学外)	新井
7	4	造園管理⑤	常緑樹、落葉樹の剪定	佐竹
8	4	造園管理⑥	本館前庭園の管理	新井
9	4	造園管理⑦	常緑樹(マツ)の管理	佐竹
10	4	造園管理⑧	世界のバラ園前、花トピア前小庭園の管理(学外)	新井
11	4	造園管理⑨	落葉樹の剪定	新井
12	4	造園管理⑩	バラの冬季剪定	上田
13	4	造園施工③	樹木の移植(高木)、植栽基盤の土壌改良	新井
14	4	造園施工④	チェーンブロックによる景石の据え付け	佐竹
15	4	造園施工⑤	延段の施工	佐竹

特記事項	実習時は作業着、グローブ、保護帽などを着用すること。天候などの理由により実習内容を変更する場合がある。夏期の高温時の実習では、熱中症防止のため帽子を着用し水分補給をすること。
学生へのメッセージ	造園の基本的な知識や技術、センスをこの授業でしっかり身につけてください。

科 目						担当教員(○主担当)			
測量・製図実習						○相田 明、新井 俊宏☆			
授業形態	実習	開講時期	1年後期	時間数	30	区分	選択	分野	造園緑化
背景と目的		測量や製図は造園空間を計画・設計・施工する基礎となる。 この実習では測量機器の操作方法、測量データの整理方法を習得し、製図実習では製図道具の使用方法や作図法などを習得することを目的とする。							
到達目標		・平板・水準測量の技術を習得する。 ・製図板(ドラフター)、三角定規など製図道具の使い方を理解し、基本的な図面を描くことができる。							
授業外の学習		造園空間がどのような寸法で出来ているか普段から観察すること。							
評価方法		取組姿勢(50%)、提出物(50%)							
教科書		『造園施工必携』(日本造園組合連合会)							
参考書		—							
関連する資格		—							

※☆のある教員は実務経験有り

授業計画				
実習・演習の進め方		配布資料に沿って解説を行った後、グループに分かれて測量を実施する。		
回	時間数	項 目	授業内容	担当教員
1	4	測量とは	測量の基礎、学内の距離測量	新井
2	4	平板測量①	芝生広場の平板測量	新井
3	4	平板測量②	本館回りの平板測量	新井
4	4	水準測量	水準測量の理論と機器の取り扱い、学内の水準測量	新井
5	4	製図①	製図の基礎	相田
6	4	製図②	樹木記号、線種	相田
7	4	製図③	トレースと色塗り	相田
8	2	製図④	屋外工作物(ガーデンチェア)の実測と作図	相田

特記事項	造園緑化コース専攻生には強く推奨する。「CAD製図実習」を履修予定の学生にも強く推奨する。 測量は屋外で行うため雨天時は、製図に日程を変更する。
学生へのメッセージ	平板測量や水準測量は測量の基礎を学ぶことができます。また、実務ではコンピュータを利用する設計(CAD)を利用することが多くなっていますが、手書きの図面はこれの基本となります。

科 目						担当教員(○主担当)			
CAD製図実習						○相田 明、堀部 裕美子☆(非常勤講師)			
授業形態	実習	開講時期	1年後期	時間数	30	区分	選択	分野	造園緑化
背景と目的		文章を手書きではなくパソコンを用いて書くように、造園の設計図もパソコンを利用する時代となっている。設計図を描くソフトウェアであるCADによる作図の基礎を学び、今後の造園設計に役立てることを目的とする。							
到達目標		・CADによる基本的な作図ができる。							
授業外の学習		造園空間がどのような寸法で出来ているか普段から観察すること。							
評価方法		取組姿勢(50%)、提出物(50%)							
教科書		『CADリテラシー演習』、『はじめてのVectorworks』、『Vectorworks3Dのスタート』(A&A)							
参考書		—							
関連する資格		—							

※☆のある教員は実務経験有り

授業計画				
実習・演習の進め方		PCを使用して、実際にCADソフトを操作しながら実施する。		
回	時間数	項 目	授業内容	担当教員
1	4	CADとは	手書きによる製図とCAD・エクステリア用CAD	相田
2	4	VectorWorksの基礎	起動から新規作成・保存、レイヤとクラス	相田
3	4	作図の基本	トレーニング 直線・ダブルライン、四角形・斜め四角の描画、多角形、正四角形、曲線・フリーハンド図形の描画	相田
4	4	2D図形の編集	多角形の編集・消しゴムツール、フィレット・面取り・オフセット、回転ツール・ミラー反転ツール・パス複製ツール	相田
5	4	平面図の実践トレーニング①	図面の制作(3級造園技能士施工図)	相田
6	2	平面図の実践トレーニング②	図面の制作(2級造園技能士施工図)	相田
7	8	3D図形の編集	柱状体・錘状体・多段柱状体を使って描画、3D図面の制作	堀部・相田

特記事項	「測量・製図実習」の履修者、もしくは製図の基礎を理解している学生を対象とする。岐阜県農業大学校の情報処理室で実施する。
学生へのメッセージ	CADのソフトウェアは操作が複雑で難しいと感じるかもしれませんが、しかし、一度覚えると卒業制作などの図面を修正するとき便利なのが実感できると思います。

科 目						担当教員(○主担当)			
商品動向リサーチ I						○井上 守☆			
授業形態	実習	開講時期	1年後期	時間数	30	区分	必修	分野	マーケティング
背景と目的		日本で流通する園芸植物は属名ベースで1600属以上といわれている。この授業では、鉢物の取引量で全国1位を誇る愛知豊明花き卸売市場が2020年に取り扱い約1600品目のうち、秋冬期の取扱金額上位の200品目の植物について、学名や原産地や特徴や管理方法について独自のデータベースを作成する。この200品目は品目数では全体のわずかに14%に過ぎないが、金額ベースでは全体の約80%をカバーしている。取り扱い上位の植物から学習することは流通している植物を効率的に学習することができ、植物知識を生かして現場で即戦力となる事を目的とする。							
到達目標		・図鑑やインターネットを利用した植物の調べ方を知る。 ・植物の写真の撮り方の基礎を知る。 ・植物図鑑アプリを使用できる ・秋冬期、上位200品目について、学名や原産地や特徴や管理方法などを知る。							
授業外の学習		小売店、ガーデンセンター、公園の花壇において花の名前を意識して見ておくこと。							
評価方法		データベースの作成成果(20%)、試験(80%)							
教科書		『園芸大図鑑』(ブティック社)							
参考書		『センスは知識からはじまる』(朝日新聞出版)							
関連する資格		—							

※☆のある教員は実務経験有り

授業計画				
実習・演習の進め方		最初に200品目のリストを配布し、近隣のガーデンセンター(日本ライン花木センター)でリストに該当する植物を探し、写真撮影する。撮影した植物は、花名鑑、学校の図書館やインターネットを利用して、手書きの植物のデータベースを完成させる。最後に200品目について、写真から植物名を同定する確認試験を行う。		
回	時間数	項 目	授業内容	担当教員
1	2	植物の調べ方	植物の調べ方、図鑑の見方	井上
2	2	植物の撮影方法	植物撮影の基礎	井上
3	4	花木センターでの写真撮影(10月:秋の植物)	リンドウやキク科植物など代表的な秋の植物の調査、撮影	井上
4	4	データベース作成、植物調べ①	データ整理、画像処理等、図鑑による植物調べ	井上
5	4	花木センターでの写真撮影(12月:年末の植物)	シクラメン、ポンスセア、シンビジウムなど代表的な年末の植物の調査、撮影	井上
6	4	データベース作成、植物調べ②	データ整理、画像処理等、図鑑による植物調べ	井上
7	2	植物図鑑アプリの活用	Googleレンズ、PictureThis、GreenSnapなど植物図鑑アプリを使用して植物同定を行う	井上
8	4	花木センターでの写真撮影(1月:早春の植物)	プリムラ類など代表的な早春の植物の調査、撮影	井上
9	2	データベース作成、植物調べ③	データ整理、画像処理等、図鑑による植物調べ	井上
10	2	試験	写真から植物を同定する試験	井上

特記事項	デジカメ(スマートフォン可)、USBメモリ等が必要
学生へのメッセージ	データベース作成はボリュームがあり、とても授業時間内には終わらず、家庭学習になりますが、データベースが完成した時は達成感があります。

科 目						担当教員(○主担当)			
キャリアデザインⅠ						○佐藤 智茂☆、田子 希羊加☆(非常勤講師)、 高木 雄基☆(非常勤講師)、安保 有美☆(非常勤講師)			
授業形態	講義	開講時期	1年後期	時間数	30	区分	必修	分野	マネジメント
背景と目的		人生100年時代を生きる若者は、より長い期間に渡り働くこととなると考えられる。そのことに伴い働き方もこれまで当たり前とされていた形から大きく変化する可能性が指摘されている。 学生が自らの勤労観や職業観を育み、進級卒業に向けて学業とともに就職活動へ積極的に取り組めるようになることをこの授業の目的とする。							
到達目標		・自身の現在の『社会人基礎力』を知る。 ・多用なキャリアを持つ人々の話に触れるを通し、自らの勤労観や職業観を習得する。 ・就職活動の準備を円滑に行えるようになる。							
授業外の学習		『1週間の活動履歴ポートフォリオ(学習活動日記)』の記入→提出→返却(見返し)							
評価方法		取組姿勢(40%)、提出物(40%)、小テスト(課題レポート)(20%)							
教科書		—							
参考書		—							
関連する資格		—							

※☆のある教員は実務経験有り

授業計画				
回	時間数	項 目	授業内容	担当教員
1	2	導入講義	職業人生(キャリア)を描く(デザイン)するとはどういうことなのか考える	佐藤
2	2	検定受検	『社会人基礎力診断』受検	佐藤
3	4	社会人マナー講座	社会人として身に着けておきたいマナーについて	田子
4	2	働くことへの視点①	働くことと、キャリアの展開について考察	佐藤
5	2	働くことへの視点②	著名な起業家の有名なスピーチを通して、キャリアの形成について考察	佐藤
6	2	働く、ということ①	マーケティングの基本(歴史・顧客・3C)	佐藤
7	2	働く、ということ②	マーケティングの基本(マーケティングミックス 4P)	佐藤
8	2	働く、ということ③	マーケティングの基本(ディスカッション演習)	佐藤
9	2	職業園芸人になる①	アカデミー卒業後の私のキャリア①	安保
10	2	職業園芸人になる②	アカデミー卒業後の私のキャリア②	高木
11	2	人生設計シミュレーション①	生活設計プラン疑似体験(～30代まで)	佐藤
12	2	人生設計シミュレーション②	生活設計プラン疑似体験(～60代まで)	佐藤
13	2	就職活動について①	就職活動に関する情報提供①(スケジュール等全般的な流れ)	佐藤
14	2	就職活動について②	就職活動に関する情報提供②(自己分析・会社説明会、ES等)	佐藤

特記事項	非常勤講師の講義は講師都合等による開講日、順序の変更の可能性がある。
学生へのメッセージ	人生100年時代を生きる皆さん、長い旅路の中で大きな部分を占めるであろう“働く”ことについて、自分なりの考え方を持てるよう、一緒に学んでいきましょう。

科 目						担当教員(○主担当)			
基礎会計						○佐藤 智茂☆			
授業形態	講義	開講時期	1年後期	時間数	30	区分	選択	分野	マネージメント
背景と目的		ビジネス社会の共通言語は会計。本科目の目的は、全ての働く人にとって大切な「基礎的な会計(簿記)力」を身に付けることである。							
到達目標		・財務諸表(貸借対照表、損益計算書)の基本を理解する。 ・財務諸表を作成するための技術(簿記)と体系(会計学)の基本を理解する。							
授業外の学習		・使用テキスト中の“基本例題”は繰り返し解答すること。 ・小テストは見直しと再解答を行い、配布プリントはしっかり読むこと。							
評価方法		取組姿勢(40%)、小テスト(20%)、筆記試験(40%)							
教科書		『合格テキスト 日商簿記3級(最新版)』(TAC出版)							
参考書		—							
関連する資格		日本商工会議所主催 簿記検定3級							

※☆のある教員は実務経験有り

授業計画				
回	時間数	項 目	授業内容	担当教員
1	2	会計基礎①	わかりやすいミクロ経済(書籍購読)	佐藤
2	2	会計基礎②	株式会社の成り立ちと仕組み	佐藤
3	2	会計基礎③・複式簿記①	企業活動と財務諸表(貸借対照表・損益計算書)	佐藤
4	2	複式簿記②	勘定科目・仕訳・転記・試算表	佐藤
5	2	複式簿記③	商品売買取引(商品売買・掛取引・手付・返品)	佐藤
6	2	複式簿記④	商品売買取引(諸掛り・立替払・売買掛金元帳・商品有高帳)	佐藤
7	2	複式簿記⑤	現預金・クレジット売掛金・手形・電子記録債権債務 他	佐藤
8	2	複式簿記⑥	帳簿体系 その他取引(貸付金・借入金、固定資産取引関連)	佐藤
9	2	複式簿記⑦	その他取引(仮払金・仮受金、給与関連、訂正仕訳)	佐藤
10	2	複式簿記⑧	試算表 決算	佐藤
11	2	複式簿記⑨	決算整理 (現金過不足、当座借越、売上原価)	佐藤
12	2	複式簿記⑩	決算整理 (貸倒処理、減価償却、経過勘定)	佐藤
13	2	複式簿記⑪	精算表	佐藤
14	2	複式簿記⑫	財務諸表作成	佐藤
15	2	試験	筆記試験	佐藤

特記事項	自主学習はとても大切であり、予習と復習は必須である。 理解度により授業内容の変更(進め具合の調整)を行うことがある。 2年前期『起業・経営シミュレーション』の履修を希望する者は当科目の履修を勧める。
学生へのメッセージ	ゲーテは著作の中で簿記のことを「人間の精神が生んだ最高の発明の一つ」と記しています。数字や計算に苦手意識のある人も積極的に学びましょう。

科 目						担当教員(○主担当)			
伝統園芸実習						片倉 佳容☆(非常勤講師)、福本 野恵☆(非常勤講師)			
授業形態	実習	開講時期	1年後期	時間数	30	区分	選択	分野	文化・利用
背景と目的		いけばなと盆栽は1000年以上の歴史を持つ日本の伝統的な園芸文化でありながら、現代の日本人には「古臭い」イメージを持つ人が多いのか、これらを楽しむ人や伝統を受け継ぐ人が減少している。これに対して、海外ではいけばなと盆栽の芸術性が評価され愛好者が増え続け、今ではikebana、bonsaiは「Cool Japan」の中心である。本講義では伝統的な園芸文化であるいけばなと盆栽を専門講師から基礎を学び、実際に制作する事によって、いけばな盆栽の魅力を理解する事を目的とする。							
到達目標		・いけばなの歴史を知る。 ・いけばなの基本的実技を習得する。 ・盆栽の歴史や技術を知る。 ・盆栽の選定、針金掛け、植え替えを習得する。							
授業外の学習		園芸において、日本文化に関りの深いニュースや新聞記事には注目しておくこと。							
評価方法		いけばな、盆栽ともに取組姿勢(50%)、制作物(50%)							
教科書		盆栽はレジュメを配布							
参考書		—							
関連する資格		池坊入門							

※☆のある教員は実務経験有り

授業計画				
実習・演習の進め方		盆栽は2月に2日間の集中講義として実施する。		
回	時間数	項 目	授業内容	担当教員
1	4	いけばなの基本	時代、文化、建築の変化といけばなの関り 花材の見つめ方、花と人の心の触れ合いと自然との対話	片倉
2	4	自由花 一種生け	花材の特性を生かした創作 池坊生花の一種生けの花型と種類	片倉
3	4	季節のいけばな 二種生け	行事のいけばな 池坊生花の二種生けの花型と種類	片倉
4	4	三種生け まとめ・試験	池坊生花の三種生けの花型と種類 花材の特性を生かした創作、評価	片倉
5	8	盆栽概論 盆栽創作①	盆栽の歴史と現在の盆栽ブーム 芽摘み、枝抜き	福本
6	6	盆栽制作② 評価、講評	針金かけ、植え替え 学生が製作した作品を観賞および評価	福本

特記事項	—
学生へのメッセージ	いけばなや盆栽の魅力を日本人よりむしろ外国人の方が評価しているのではと感じられるくらい海外では注目が集まっています。日本の誇るべき伝統園芸文化を受け継ぎ、伝承していきましょう。

科 目						担当教員(○主担当)			
園芸福祉論・実習						○相田 明、石神 洋一☆(非常勤講師)、吉長 成恭☆(客員教授)			
授業形態	実習	開講時期	1年後期	時間数	30	区分	選択	分野	文化・利用
背景と目的	農業や園芸には、環境保全や生活の楽しみ・文化を担うといった側面がある。これらの多面的機能を利用した園芸療法や園芸福祉は、人々に楽しみや癒しを与え、QOL(生活の質)の向上に役立つ。本授業では講義と実習によりこの分野の理解を含め、実際の活動を主体的に展開するための知識と計画立案について学ぶ。								
到達目標	・園芸福祉の全容を理解する。 ・園芸福祉プログラムを立案することができる。 ・初級園芸福祉士の受験資格を得る。								
授業外の学習	園芸福祉の考え方を普段の生活に取り入れること。								
評価方法	取組姿勢(50%)、提出物(50%)								
教科書	『園芸福祉入門』(創森社)								
参考書	『バイオセラピー学入門』(講談社)								
関連する資格	初級園芸福祉士								

※☆のある教員は実務経験有り

授業計画				
実習・演習の進め方		基本的に2コマ連続で授業を実施し、1コマ目は講義、2コマ目は実習を行う。		
回	時間数	項 目	授業内容	担当教員
1	8	園芸福祉の活動とは、活動を地域のなかに普及する	その活動と現代的意義、園芸福祉と心身への効果、園芸福祉とボランティア、活動プログラム立案	石神・相田
2	4	植物をよく知り活用しよう	園芸福祉・園芸療法で使う植物の種類と育て方、レイズドベッド(立ち上げ花壇)	相田
3	4	誰もが楽しめるプログラム	年間を通じて楽しむ園芸福祉	相田
4	4	ハーブの利用方法	ハーブの種類と栽培方法と利用方法、ドライハーブを利用したセッション	相田
5	4	アロマテラピー	アロマテラピーの歴史・効能・精油・精油を利用したセッション	相田
6	4	実践プラン発表	課題発表	相田
7	2	コミュニティづくりに生かす	様々な園芸福祉活動	吉長

特記事項	単位取得者は、初級園芸福祉士養成講座認定校修了証が交付され、初級園芸福祉士の受験資格を得ることができる。受講者は受験することを目標とする。試験日は2月中旬の予定である。
学生へのメッセージ	園芸福祉とは農園芸活動を通じた幸福の追求です。今後の活用が期待される分野です。

科 目						担当教員(○主担当)			
園芸色彩学						○井上 守☆、荏原 温子☆(非常勤講師)、吉田 久美子☆、相田 明、林 誠☆			
授業形態	実習	開講時期	1年後期	時間数	30	区分	選択	分野	文化・利用
背景と目的		成熟社会を向かえ、企業は商品の品質や性能を高めるだけでなく、商品のデザイン性を高める事が販売につながる事に気付き始めている。今後経営に求められるものが、理論、効率に代表されるサイエンスから、感性や美意識によるアートになることが予想される。そこで、本講義では商品デザイン力を高めるために、デザインの基礎である色彩について、商品デザインと造園空間に特化した色彩について学習する。 園芸専門のカラーコーディネーターを招聘して色彩の基本的な理論から、ブーケ制作、造園と色彩テーマにした事例を学習などを通して園芸における色彩を総合的に学ぶ。							
到達目標		・色相環とトーン、配色方法など基本的知識を知っている ・色彩心理に基づいたカラーマーケティングを学び、ニーズに合う売れる商品作りに生かせる。 ・パーソナルカラー、フラワーセラピー等から自分自身を色で知り、色彩の力を知る。							
授業外の学習		店舗の装飾、企業広告の色使いなど、日頃から色彩を意識してみること。							
評価方法		取組姿勢(20%)、筆記試験(80%)							
教科書		テキストを配布							
参考書		—							
関連する資格		色彩検定協会 色彩検定3級							

※☆のある教員は実務経験有り

授業計画				
実習・演習の進め方		フラワーカラーセラピーでは、実際にアレンジメントを制作します。 植物カラーコーディネート実習においては、植物に合う鉢色を選択し商品を完成させて、コンセプトを発表します。		
回	時間数	項 目	授業内容	担当教員
1	4	園芸における色彩とは	・色彩とは？ 今後の園芸における色彩の重要性について ・園芸におけるカラーコーディネート	荏原
2	4	カラーマーケティング	・人の嗜好と売れる色彩 ・植物の色が及ぼす生理的・心理的影響	荏原
3	4	パーソナルカラー	・人に似合う色を知る。ブライダルフラワーカラー	荏原
4	4	フラワーカラーセラピー実習・花色心理	フラワーカラーセラピーによるフラワーアレンジ制作。作品の観察、深層心理分析	荏原
5	4	植物カラーコーディネート実習	・カラーチャートによる植物の色の”虫の目観察“ ・鉢色の違いによる商品性実習(24色ポリポット、花苗使用)	荏原
6	4	花色とラッピング	・イエローアンダートーンとブルーアンダートーン ・イメージワードから受ける色による花束&ラッピング	吉田・林
7	4	造園空間における色彩	・庭園、公園、景観における色彩の考え方 ・景観法と景観色彩ガイドライン、色彩計画	相田
8	2	試験	筆記試験	井上

特記事項	カラーチャート、ノリ、ハサミ、切花用ハサミが必要。
学生へのメッセージ	園芸分野に特化した色彩学は全国でも珍しい授業です。園芸専門のカラーコーディネーター荏原講師は、花き生産者や花き関連企業のデザインアドバイザーとしての実績が多数あり、業界関係者(プロ)が学ぶ先生です。

科 目						担当教員(○主担当)			
植物管理基礎実習Ⅱ						○前田 宝秀、臼田 浩通、吉田 久美子☆、林 誠☆、 相田 明、新井 俊宏☆、井上 守☆、佐藤 智茂☆			
授業形態	実習	開講時期	1年後期	時間数	30	区分	必修	分野	植物管理
背景と目的		生産・装飾・造園の各分野において、四季を通じて植物を管理するための知識および技術は必ず習得すべきものである。本科目では、秋・冬期における生産温室、学内花壇、庭園、その他各種花飾り等の日常管理を行うことで、園芸植物管理に不可欠な基礎的技術と知識を習得する。							
到達目標		・秋・冬期における植物の種類による管理方法の違いを理解する。 ・秋・冬期における灌水技術を習得する。 ・秋・冬期における温室の管理技術を習得する。							
授業外の学習		実習前に、当日および翌日の天気予報を必ず確認すること。実習後に週間レポート用紙に当日の気温、天気、実習内容、疑問に思ったこと等を記入すること。							
評価方法		取組姿勢(80%)、レポート(20%)							
教科書		—							
参考書		—							
関連する資格		—							

※☆のある教員は実務経験有り

授業計画				
実習・演習の進め方		原則1週間(水曜日～翌週火曜日)を単位として管理実習を行う。学生の班編制を行い、年間計画を作成して実習を行う。学生の班編制は、季節の作業内容や管理するエリア等を考慮して人数を決める。担当教員が植物管理について指導を行う。		
回	時間数	項 目	授業内容	担当教員
1	8	植物の種類と管理	植物の種類に応じた管理方法	週担当教員
2	8	土壌と灌水①	土壌の性質と水管理	週担当教員
3	8	土壌と灌水②	自動灌水と手灌水による管理技術	週担当教員
4	8	植物の生長・開花①	環境(温度・光・水・風)の変化による植物の生長の違い	週担当教員
5	8	植物の生長・開花②	植物の特性に応じた環境調節(遮光、保温、暖房等)技術	週担当教員
6	8	植物の総合管理	花殻摘み・除草などの植物維持管理技術	週担当教員
7	8	病害虫・品質	病害虫の種類と生態	週担当教員
8	2	秋・冬期の植物管理方法	秋・冬期の各エリアの植物管理方法(講義)	前田・吉田・新井・佐藤
9	2	エリア整備	各エリアの整備を通じた、環境美化意識の向上	各エリア担当教員

特記事項	年間計画に基づき、おおむね1週間の実習を複数回行う。 実習時間は原則として、朝8時から8時45分、夕方16時35分から17時5分までとする。 祝日および長期休暇期間中も行う。
学生へのメッセージ	まずは植物を「枯らさない」ことに始まり、「美しい状態で維持管理する」技術の習得を目指します。灌水の技術だけでも3年かかってやっと習得できるという意味で、「水やり三年」という言葉があります。植物の日常的な管理は日々の経験の積み重ねが大切ですので、コツコツと頑張りましょう。

科 目						担当教員(○主担当)			
インターンシップ I						○各コース担当教員、佐藤 智茂☆			
授業形態	実習	開講時期	1年後期	時間数	120	区分	必修	分野	就業体験
背景と目的		新卒者の3年内離職率は過去平均して40%程度で推移しており、就業後のミスマッチが発生していると考えられる。この科目では「就職や勤労に対する意識」を涵養し、社会人として「自分に足りないもの」を自覚し、今後の学習意欲の向上を図ること、また「実際に仕事に臨むための姿勢や態度」を体感し、今後の進路・職業選択に役立てることを目的とする。							
到達目標		・受入先企業・団体等の業種の全般的な仕事内容に関して、体験に基づいた知見を習得する。							
授業外の学習		返却された『日報』をしっかりと通読する時間を設け、自らの体験学習を振り返ること。							
評価方法		受入先企業評価(40%)、日報(40%)、報告会(20%)							
教科書		—							
参考書		—							
関連する資格		—							

※☆のある教員は実務経験有り

授業計画				
実習・演習の進め方		①担当教員と十分な事前相談→②受入先企業・団体等の指導下で10日間の就業体験→③報告会へ向けての振り返りと資料作り→④報告会で発表		
回	時間数	項 目	授業内容	担当教員
1	2	ガイダンス	インターンシップに関する説明・注意事項など概要講義	佐藤
2	2	事前準備	受け入れ先企業の検討など詳細を相談	各コース 担当教員
3	8	報告会出席	職場体験実習Ⅲ報告会へ出席	各コース 担当教員
4	80	インターンシップ実施(10日間)	受入先企業・団体等での業務に従事(実習)	各コース 担当教員
5	18	報告会準備	報告会で使用する資料作成	各コース 担当教員
6	8	報告会	プレゼンテーション形式による発表	各コース 担当教員
7	2	事後指導	報告会未発表の部分・内容の整理、まとめ	各コース 担当教員

特記事項	受入先企業・団体等の選定や事前の準備など、専攻するコースの教員と十分に相談を行うこと。「業務従事中は受入先企業等の一員である」意識を持ち、ビジネスマナーに留意すること。また実習時の怪我や器物の破損など、事故のないよう十分に注意すること。
学生へのメッセージ	長期間の業務従事は初めてという学生も多いと思います。自分なりのテーマを考え、仕事の大きな流れを体感し、今後の学習活動で学ぶべき課題を持ち帰ってきてください。